

校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら学びつながり合える生徒の育成
教科・領域	全教科・全領域

2 主題設定の理由

本校では、「すべての生徒が楽しく安心して学べる学校」を学校教育目標に掲げている。国籍を含め、多様な背景をもつ生徒が在籍しており、この「すべての生徒」という言葉の意味は非常に大きい。

しかし現状として、生徒同士のつながりの希薄さから生じるトラブルや心ない発言が見られ、アンケート結果からも、互いを十分に信頼し合えているとは言い難い状況が明らかとなった。

そこで、「つながり」を育みたいという思いが強くなった。しかし、このつながりは教師が一方的に用意するものではなく、生徒自身が主体的につくっていく必要がある。そのためには、協働だけでなく、自律の力も重要であると考え、「自ら学ぶ」を研究主題の冒頭に設定した。

したがって、本研究主題は、単なる研究テーマというよりも、「創徳中学校を卒業するまでに、どのような力を身に付けてほしいか」という共通理念としての意味合いが強い。

あえて研究として捉えるならば、「学校として共有されたビジョンの明確化が、授業改善や組織改善にどのように寄与するのか」を問いとして設定している。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

（１）目標の再定義

単に「安心して過ごす」ことを目的とするのではなく、「安心して学ぶ」、すなわち、自分自身を高めるために必要な環境を整えることを重視している。

そこで、「心理的安全性」という言葉を、「ありのままの現在を無条件に肯定すること」ではなく、「これから挑戦しようとしていることや、なりたい自分を否定されないこと」として定義した。

そのうえで、安心して学べる環境を土台とし、生徒にどのような力を身に付けてほしいかを考え、研究主題に関わる「自律」と「協働」を以下のように定義した。

・ 自律（自ら学ぶ）

自分で考え、行動し、自らの行動に責任をもつこと。

・ 協働（つながり合う）

異なる立場や強みをもつ人と協力し、多様な価値観や考えを認めながら、葛藤にも向き合い、目的の達成や納得解を導き出していく力。

（２）教員のオーナーシップを高める「創徳ゼミ」

本校は教員数が多く、授業のみを軸とした研究では広がりにかかる。一方で、各領域における専門性や、教員一人ひとりがもつ技能・感覚も豊富に存在している。

それらを言語化し、「心理的安全性」や「自律と協働」という軸と結び付けることで、各教員が大切にしていることや成長したいことが、学校教育目標や研究主題と密接につながっていることを実感できると考える。

そして、それぞれの目標に対して自分自身の課題やめあてを見つけていく場を、校内研修の中で実現していく。

具体的には、自律をテーマとした生徒指導・特別活動、つながりをテーマとした生徒支援・人権教育などについて、それぞれの担当者を中心とした研修（創徳ゼミ）を定期的を実施する。このゼミを通して、教師自身が問いをもち、対話しながら学ぶ経験を積むことで、「自律と協働」を教師自身が体現する組織づくりにつなげていく。

大きなテーマと領域を設定し、その中で自分自身の問いや課題を見つけ、協働を通して解決していく経験を教師自身が積むことで、総合的な学習の時間などにおいても、生徒とともに学びを深めていくことができると考える。

（３）守破離に基づく授業観・授業改善

「自ら学ぶ」力を育てようとする、「放任」や「反発」といった課題が生じやすい。これは、「教えるか、教えないか」という二元論で捉えてしまうことに原因がある。

古来より、日本の武道や芸道には、人が成長していく過程を示す「守破離」という考え方がある。本研究ではこの考え方を援用し、「何のために、何を教え、何を委ねるのか」を長期的な視点で考えていくことを目的とする。

※守・破・離の捉え

守：何を与えるか

破：授業の中で、どのような姿が見られたらよいか

離：卒業後、どのような力が身に付いてほしいか

〈社会科の例〉

離：情報を鵜呑みにせず、「本当にそうなのか」と立ち止まって調べる力

破：一つの情報を、複数の立場や側面から捉えることができる

守：一次資料を適切に読み取る力や、立場によって見え方が異なる具体例に触れる

（４）評価・検証方法

本研究では、「自ら学びつながり合える生徒」の育成に向けた取組が、生徒や教職員にどのような変化をもたらしたかを、以下の視点から検証する。

① 生徒の変容

学校生活アンケート、振り返り記述、学級や授業における生徒の発言や行動などを通して、

- ・自分で考え行動しようとする姿
- ・他者と協働しようとする姿
- ・安心して学ぼうとする姿

の変化を見取る。

② 教師の変容

創徳ゼミでの対話、教員アンケート、授業公開後の協議、振り返りシートなどを通して、

- ・教師自身が問いをもって学ぼうとしているか
- ・「自律と協働」の視点から授業や学級経営を捉えようとしているか

を検証する。

③ 学校組織としての変容

校内での実践共有の増加、教科や分掌を越えた連携、生徒支援や授業改善における共通言語の定着などから、研究主題の共有が組織改善につながっているかを見取る。

4 年間研修計画

一 学 期	4 月	エンカウンター リーダーに向けたビジョンの共有 研究主題の説明と具体的な 5 つのアクションの紹介
	5 月	9 月の校内研修に向けた教科へのお願い
	6 月・ 7 月	創徳ゼミの説明
	8 月	創徳ゼミ①② 校区連携、AI 関係
二	9 月	教科の見方・考え方研修

学 期	1 0 月	第 1 回公開授業研究会
	1 1 月	生徒支援研修
	1 2 月	創徳ゼミ③第 1 回の反省を受けて
三 学 期	1 月	第 2 回校内研修
	2 月	創徳ゼミ④
	3 月	総括・来年度に向けて